

# 平成27年度 病害虫発生予察情報

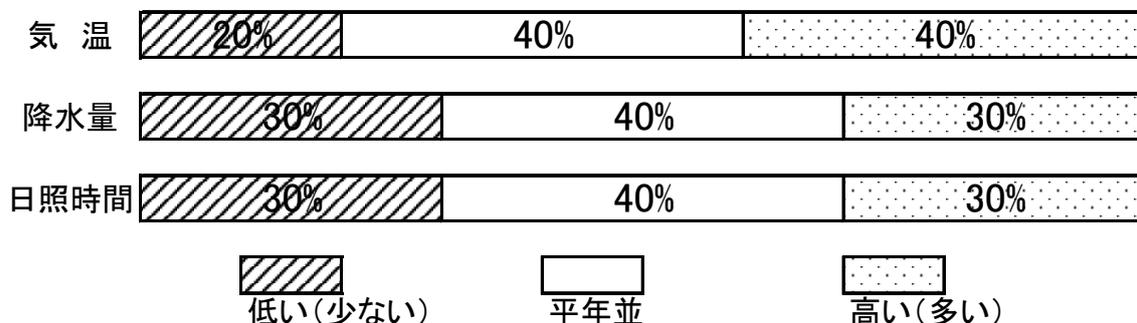
## 発生予報第6号（8月中旬～9月上旬）

平成27年8月7日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	イネ	穂いもち	平年並～やや多い
		紋枯病	やや多い
		白葉枯病	少ない
		ニカメイチュウ	平年並
		ツマグロヨコバイ	平年並
		セジロウンカ	平年並
		トビイロウンカ	平年並
		コブノメイガ	平年並
		斑点米カメムシ類	やや多い
		黒斑病	やや少ない
果樹	ナシ	シンクイムシ類	平年並
		ハダニ類	やや多い
		カメムシ類	やや少ない
	カキ	うどんこ病	少ない～やや少ない
		カキミガ	平年並
		カメムシ類	やや少ない

中国地方1か月予報(8月8日～9月7日・広島地方気象台8月6日発表)  
 <向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



### A. 普通作物

#### 1) 水稻

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における穂いもちの発生ほ場率は15.7%（平年11.0%）、発病株率は6.1%（平年4.1%）とやや多く、発病程度の高いほ場もある。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。

##### (2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県内全域

発生量 やや多い

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査（70ほ場）における発生ほ場率は21.4%（平年23.6%）、発病株率は5.8%（平年3.9%）で、発病株率の高いほ場がある。

② 向こう1か月の気象は、本病の発生（発病株での上位進展）にやや助長的である。

- る。
- (3) 白葉枯病  
 予報内容  
 発生地方 県内常習発生地帯  
 発生量 少ない  
 予報の根拠  
 ① 7月下旬の発生量はやや少ない。  
 ② 向こう1か月の気象は、本病の発生にやや抑制的である。
- (4) ニカメイチュウ (第2世代)  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 予察灯における誘殺数は平年並みである。  
 ② 8月上旬の巡回調査では、発生圃場率は11.4% (平年8.3%)、被害株率は0.1% (平年0.3%) で発生量は平年並みである。  
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (5) ツマグロヨコバイ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は4.5頭 (平年18.9頭/50株)、発生圃場率は40.9% (平年72.6%) で発生量は平年に比べやや少ない。  
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。
- (6) セジロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 予察灯への初飛来は隠岐の島町で6月11日、出雲市で7月4日に認められた。誘殺数は平年並みである。  
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は9.8頭 (平年35.4頭/50株)、発生圃場率は75% (平年77.8%) で発生量は平年並みである。  
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (7) トビイロウンカ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は0.04頭 (平年0.19頭/50株)、発生圃場率は2.3% (平年6.45%) で発生量は平年並みである。  
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (8) コブノメイガ  
 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 平年並  
 予報の根拠  
 ① 予察灯での誘殺数は平年並みである。  
 ② 8月上旬の巡回調査では、捕獲数は0.06頭 (平年0.17頭/50株)、発生圃場率は2.3% (平年11.4%) で発生量は平年並みである。  
 ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。
- (9) 斑点米カメムシ類

### ※ 斑点米カメムシ類注意報(7月17日) 発表

- 予報内容  
 発生地方 県内全域  
 発生量 やや多い  
 予報の根拠  
 ① 8月上旬に出穂しているほ場でのすくい取り調査では、カメムシ類合計で2.2頭/20回振り(平年3.1頭)、発生地点率39.1% (平年64.3%) で発生量は平年並みである。

- ② 6月下旬の圃場周辺雑草地のすくい取り調査では、カメムシ類合計で9.5頭/20回振り(平年6.6頭)、発生地点率58%(平年67%)で平年に比べやや多い
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 8月上旬の巡回調査では、発病葉率9.7%(平年13.0%)であり、発生量は平年と比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を助長する要因とはならない。

(2) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

① フェロモントラップ(安来市、出雲市)でのナシヒメシンクイ第1世代の雄成虫の誘殺盛期、誘殺数はともに平年並みである。

② 向こう1か月の気象は本種の発生を助長する要因とはならない。

(3) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯

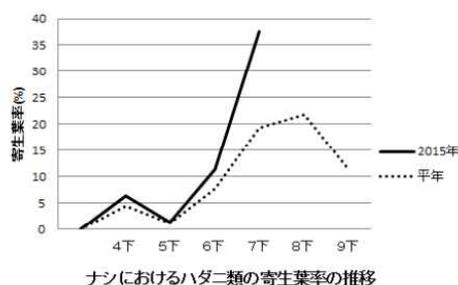
発生量 やや多い

予報の根拠

① 8月上旬の巡回調査では寄生葉率37.5%(平年19.3%)でやや多い。

② 向こう1か月の気象は本虫の発生を特に抑制する要因とはならない。

③ クワオオハダニが見られる圃場も散見される。クワオオハダニに効果の低い薬剤があるので薬剤の種類には注意が必要である。



(4) カメムシ類

予報内容

発生地方 ナシ栽培地帯

発生量 やや少ない

予報の根拠

① 予察灯(出雲市)での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は115頭(平年1491.3頭)で平年に比べやや少ない。

② チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる8月1半旬までの誘殺数は69頭(平年1259.5頭)と平年に比べてやや少ない。

③ 向こう1か月の気象はカメムシ類の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯

発生量 少ない~やや少ない

予報の根拠

① 7月下旬の巡回調査では、発病葉率0.43%(平年5.4%)であり、発生量は平年と比べてやや少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) カキミガ(第2世代)

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯

発生量 平年並

予報の根拠

- ①第1世代幼虫による芽および果実の被害は平年並みであった。
- ②向こう1か月の気象は発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメムシ類

予報内容

発生地方                   カキ栽培地帯  
発生量                      やや少ない

予報の根拠

- ①予察灯（出雲市）での8月1半旬までのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシの3種果樹カメムシ類の誘殺数は115頭（平年1491.3頭）で平年に比べやや少ない。
- ②チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップによる8月1半旬までの誘殺数は69頭（平年1259.5頭）と平年に比べてやや少ない。
- ③向こう1か月の気象はカメムシ類の発生を特に助長する要因とはならない。

**島根県病害虫防除所**

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>